

鳥取市100円循環バス「くる梨」への電子マネー導入計画

【概要】

「くる梨」は4台で鳥取市内を時計回りと、反時計回りの2系統を20分間隔で合計1日62便運行をしています。平成23年度の「くる梨」利用者が過去最高の30万人となりました。

電子マネーを導入することにより、バス利用者の利便性が向上し、更なるバス利用者を増やします。

【電子マネー導入】

- ◇降車時にカードをかざすだけで、100円を課金します。
 - ・WAON、EDY、iD、ビザタッチ/スマートプラス、クイックペイ、ナナコ（予定）が使用可能
- ◇タッチパネルを搭載
 - ・運転手は、簡単な操作で金額設定可能
- ◇乗客は、電子マネーをタッチするだけ
 - ・大人1人は何もせずに、タッチするだけ
 - ・障害者割引、複数人などの支払は運転手がタッチパネルで操作

【導入メリット】

- ◇利用者にとって利便性向上（支払いの煩わしさの解消）
- ◇新たなシステム開発が不要
- ◇話題性（WAONカード導入は全国初）
- ◇新規利用者が期待される
- ◇電子マネーの普及

【導入経費】 6台合計設置費用 4,800,000円

- ◇精算機（バス車内設置費用）
 - ・本体 450,000円×6台 2,700,000円
 - ・取付費用 350,000円×6台 2,100,000円

※イオン㈱の協力により、既存のシステムを使うことで莫大な開発費が不要である。

◇その他

- ・システム利用料 2,000円/月・台
- ・決算手数料（マネー毎に設定） 約2.0%

【試験導入時期】平成24年12月

- ◇平成25年4月に本格利用するにあたり、今までバス車内で使用した事のない機材を使用するため、試験運行をしながら改良を行う予定です。

地域公共交通確保維持改善事業(地域公共交通バリア解消促進等事業)

事業の目的

地域の多様な関係者による議論を経た地域の交通に関する計画に基づき実施されるバス、タクシー、旅客船、鉄道駅、旅客ターミナルのバリアフリー化を支援する。

協議会等(スキーム)

- ・協議会(都道府県、市町村又は事業ごと)において、事業の目的・必要性、定量的な目標・効果、事業内容と事業実施者、費用の総額・負担者・負担額等を記載した生活交通ネットワーク計画を策定し、国(運輸局等)へ提出。
- ・協議会が策定した生活交通ネットワーク計画に位置付けのある事業について、当該事業を実施する事業者が国(運輸局等)へ補助申請。事業実績の報告の後、国から事業者に対し補助金交付。

バス・タクシーのバリアフリー化事業

- 既存バスターミナル、タクシー乗り場のバリアフリー化(バリアフリー化設備、待合・乗換設備、情報案内設備、HP制作等)1/3
- ノンステップバス・リフト付バス(車両購入・改造)の導入
※自動車バリアフリー補助1/4又は差額の1/2
- 福祉タクシーの導入(車両購入・改造、共同配車センター関係設備等)
※自動車バリアフリー補助1/3
(共同配車センターの設立を要件としない)

利用環境改善促進等

- LRTシステムの整備(車両購入、停留所整備等)
※LRT補助1/3
- BRTシステムの整備(車両購入、停留所整備等)
1/3
- ICカードシステムの整備(システム開発、設備整備等)1/3
- バス等ロケーションシステムの整備(システム開発、設備整備等)1/3

協議会の構成員

- 関係する件又は市区町村
- 関係する交通事業者
- 中国運輸局
- その他協議会が必要と認める者

計画実施後の効果

- ノンステップバス・UDタクシーが普及することにより、移動制約者の安心感・安全性・利便性が向上される。
- 健常者にとっても乗降のしやすい車両が増える事は安全性・利便性の向上に繋がる。
- この事業により、バリアフリー法に基づく移動等円滑化が推進される。

事業評価

協議会が補助対象事業について、実施状況の確認、目標達成状況等の評価を行うことで補助対象事業がより効果的、効率的に推進され、さらに第三者により二次評価をおこない、協議会に通知し、協議会は必要によりネットワーク計画を変更することで、PDCAサイクルが生まれる。

